第29回配

-周辺ので

だが今回の『猿 その名の通り、

寺社開帳や参

図版

だ博名古り館屋

235

2023.4.1

市

して興味深いことに

庵は日記に記さ

現代ではな

めたのは明

和 9

時かり

「あのお寺で

つの事だ

この地域ので

きごとに関す

例えば、

図版 2 猿猴庵日記 館蔵 キセルをふかす侍が猿猴庵か?

図版 3 泉涌寺霊宝拝見図(猿猴庵合集五編) 館蔵

記には、



人の思いが記さ

商家の銭勘定について

古屋の貸本屋・

は 単

日記は猿猴庵が携

―記録作家・猿猴庵の原点―

日本映画博覧会

名古屋市博物館だより 235 号 令和5年(2023) 4月1日 年2回(9月、4月)発行

〒 467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1 TEL 052-853-2655 FAX 052-853-3636

編集・発行/名古屋市博物館

古紙を含む再生紙使用

図版 1 猿猴庵日記 館蔵

図版1 日本映画博覧会ビラ(チラシ)表 館蔵

図版2 日本映画博覧会ビラ (チラシ) 裏 館蔵

本映画の歴史を

第1全場 犬山大自然公園・第2全場 犬山遊園地・第3全場名號百貨店 6階

Зя20в → 6я2в

蔵のビ

館蔵資料から遺跡を見る 一大曲輪遺跡・下内田貝塚一

冨田 航生

博物館と遺跡

名古屋市博物館に限らず歴史系の博物館には遺跡につい ての展示がつきものだ。しかしながら遺跡というのは過去 の人々の営みの痕跡のごくごく一部のみが現在まで残った ものでしかなく、また遺跡まるごとを展示室に持ってきて 展示できるわけでもないので、展示室にある展示物はその 遺跡のさらにほんの一部分でしかない。そのためそこからり、東山動植物園や名古屋城に保管されていたもの、調査 往時の遺跡の姿を想像することは案外難しい。

今回は瑞穂区にある大曲輪遺跡・下内田貝塚という遺跡 を例に挙げ、博物館が所蔵する多種多様な遺跡関連資料を 通して、遺跡や当時の人々の生活の全体像を展示物から覗 き見ていきたいと思う。

大曲輪遺跡・下内田貝塚の調査-調査関連資料-

大曲輪遺跡・下内田貝塚の両遺跡は現在の瑞穂公園内に あった縄文時代の遺跡で、隣接して所在するため同じ人々 が営んだ一連の遺跡ともみなされる。1939年に発見され、 愛知県史蹟名勝天然紀念物調査会により発掘された。その報を得ることができる。 後も何度か発掘調査が行われているが、当館所蔵の資料は 主には発見時の発掘資料や研究者個人の収集品である。

ところが発見時の発掘調査はまだそこまで埋蔵文化財保



図版 1 小栗鉄次郎氏の大曲輪遺跡調査資料 館蔵 右上はガラス乾板の資料を館でベタ焼きしたもの



図版2 大曲輪遺跡・下内田貝塚出土の貝殻および獣骨 館蔵 獣骨はイヌとイノシシのもの

護の体制が整っていなかった時期であったために、名古屋 市博物館に所蔵されるまでの資料の保管状況も様々であ の中心人物であった小栗鉄次郎が個人的に保管していたも のなどがあった。そのため調査時から現在までに、多くの 出土資料や調査に関する情報が失われてしまっている。

そのような失われた資料について貴重な情報を残してい るのが図版1のような記録資料である。これらは発見時の 調査時に記録された写真や拓本であり、刊行された報告 (小栗 1941) には掲載されていないものも多数ある。この ような記録資料と実際の土器などを対照することで、遺物 が当時の調査における出土資料だと知る手がかりとなり、 また今は行方不明となってしまった出土資料についても情

生き物の痕跡ー貝殻と骨ー

大曲輪遺跡・下内田貝塚はともに貝塚を伴う遺跡である。 貝塚とは読んで字のごとく貝殻が堆積したものであり、そ れに伴ってその他の動物の骨なども出土することが多い。 当時の遺跡周辺の環境や、人びとの自然との関わりかたを 知ることのできる痕跡である。

図版2は出土した貝殻や獣の骨である。貝殻の種類はハ イガイ、アカニシ、マガキなどで、いずれも河口から浅い 海に生息する貝であることから、この遺跡は当時山崎川の 河口付近にあったことが推測できる。また獣骨はシカ、イ ノシシ、イヌなどのものがあり、これらの動物が当時のこ の地域に生息し、縄文時代の人々がこれらの動物と関わっ て生活していたことがわかる。

さらにこの遺跡では、動物のみならず人間の骨(埋葬人



図版3 下内田貝塚出土人骨 館蔵

骨)も見つかっている。図版3は下内田貝塚で出土した人 骨である。遺跡に生物の痕跡が残ることは必ずしも多くな いが、そこには確かに当時の人々と動物が生きていて、自 然の中で生活を営んでいたのである。

当時の生活を知る一さまざまな道具一

一方で、土器や石器などの道具も当時の人々がどのよう な生活をしていたのか解き明かす重要なヒントであること は間違いない。大曲輪遺跡・下内田貝塚でも様々な当時の 道具が出土している (図版4)。

最も量の多い遺物は土器の破片である。館蔵資料の中に は全体形が復元できるような大きな破片はないものの、文 様や細部の形などから土器の時期などが推定可能である。 例えば大曲輪遺跡であれば縄文時代前期と晩期の2時期、 下内田貝塚は縄文時代後期に主に人々が活動していた遺跡 であることを土器の観察から知ることができる。

石器や骨角器は用途ごとに様々な形に加工された道具で うな生活を送っていたのかに思いを馳せて欲しい。 あり、この遺跡でも小形三角形の矢じり(石鏃)や、平た い石の両端に溝をつけたおもり(石錘)などが多く見つか



図版4 大曲輪遺跡・下内田貝塚出土の土器・石器・骨角器 館蔵

っている。これらは当時の生活、特に狩猟や漁などの食糧 獲得に深く関わっており、どんな道具があるかを調べるこ とで当時の人々の営みについて知ることができる。

さらに道具の中にはいわゆる「実用的な道具」でないも のも存在する(図版5)。例えば土製の人形である土偶や、 土製の耳飾りなどがあり、埋葬人骨などとあわせて当時の 人々の信仰や美意識などに関わる精神的な側面も垣間見る ことができるのである。

館蔵品から遺跡を見る

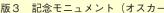
博物館で展示を見るときにはどうしても土器の意味あり げな文様や、用途不明品の不思議な形などに目が向き、そ こに人の生活の息づかいを感じるのはなかなか難しい。だ がその背後には確かに我々と同じ人類の営みがあった。そ して博物館の展示物はひとつひとつがその営みを知るため のヒントである。博物館で遺跡の展示を見る際には、展示 物を通して当時の人々がどのような自然に囲まれ、どのよ



図版5 大曲輪遺跡・下内田貝塚出土の土製品 館蔵

【参考文献】

小栗鉄次郎 1941「名古屋市昭和区大曲輪貝塚及 び下内田貝塚」『愛知県史蹟名勝天然紀念物調 査報告』19



【次号のお知らせ】

名古屋市博物館は開館から 40 年以上経 過したため、リニューアル改修を計画 しています。次号の名古屋市博物館だ よりでは、2023年10月1日からの長 期休館を控えた当館の今までの歩みを 振り返りつつ、リニューアルに向けて どのような博物館を目指すのか、従来 の館蔵資料紹介とは違う内容でお届け します。

次号 236 号は 9 月 1 日発行予定です。